

第1回熊本都市圏3連絡道路有識者委員会

<議事要旨>

■日 時

令和5年11月30日（木）10:00～11:45

■場 所

ホテル熊本テルサ 3F たい樹
(熊本市中央区水前寺公園28-51)

■出席者 ※五十音順・敬称略

<委員長>

円山 琢也 熊本大学 大学院先端科学研究部 教授

<委 員>

小林 寛子 東海大学 文理融合学部 客員教授

澤田 道夫 熊本県立大学 総合管理学部 教授

篠原 亮太 熊本県立大学 名誉教授及び熊本県環境センター 館長

竹内 裕希子 熊本大学 大学院先端科学研究部 教授

野々口 弘基 熊本経済同友会 副代表幹事
(株式会社地域交通ホールディングス 代表取締役)

古荘 貴敏 熊本商工会議所 副会頭
(株式会社古荘本店 代表取締役)

星野 裕司 熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 教授

<オブザーバー>

福井 貴規 国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所 所長

■議 事

- (1) これまでの検討状況・要望広報活動
- (2) 評価対象区間・今後の進め方(案)

■委員からの主な意見

＜今後の進め方について＞

- ・ 3つの道路を同時に検討することは、国が行う道路事業と比較すると非常に規模が大きい。アンケートに答える側の負担も大きくなることが想定されるため、今後の進め方については工夫が必要。
- ・ 課題が含まれる内容について議論する際は、事業に関するリスクについて、正確な情報を住民や企業、専門家、行政等で共有し、相互に意思疎通を図ること（リスクコミュニケーション）を意識した検討プロセスが大事。
- ・ 住民参加型により丁寧に計画検討を進めることは大事だが、一方でスピード感を持って取り組むことも重要。
- ・ やるべきプロセスを省略すると逆に時間がかかることもあるため、本委員会では、住民参加型の道路計画検討プロセスの合理性をしっかりと確認していく必要がある。
- ・ 有料道路制度を活用した場合のメリットやデメリットを早い段階で示すべき。

＜概略計画の検討について＞

- ・ 熊本都市圏連絡道路経済効果等検討会は、TSMCの進出や物流の2024年問題※がクローズアップされる前の議論だったため、このような社会情勢の変化にも着目すべき。
- ・ 「九州を支える広域防災拠点構想」や「熊本市中心市街地活性化基本計画」など、既存計画との整合を図るべき。
- ・ 道路整備による環境への影響についても、早い段階で示しながら検討を進めていくべき。

＜意見聴取の方法について＞

- ・ 最近ではインバウンドの回復や、団体旅行やパッケージツアーではなく個人での海外旅行（FIT）が増加しており、熊本を訪れた方々の中には、移動への不便さを感じている方もいると思われるため、観光客への意見聴取も必要。
- ・ これまでのアンケートの回答者は40～60代の方が多かったため、高校生など若い世代に答えてもらえる工夫が必要。
- ・ 関心がある方はアンケートに回答されるが、関心のない方や積極的な発言をしない方（サイレントマジョリティ）の意見を把握するためには、オープンハウスも有効な手段。
- ・ アンケートを実施する際には、今回検討する概略計画（案）が何を意味するのかなど、内容を分かりやすく説明したうえで、道路整備による良い面も悪い面も両方示すとともに、住民の方からのポジティブな意見もネガティブな意見もしっかりと把握することが必要。

※物流の2024年問題・・・

2024年に、トラックドライバーの時間外労働の上限が年間960時間となることにより、輸送能力が不足すると推計されている。